

# 平成25年度「学びの力向上チャレンジセミナー」のプログラム紹介

## 【演習Ⅰ】・【演習Ⅱ】

### 「インプロで高めるコミュニケーション力」・「インプロで高める表現力」

講師 東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 音楽・演劇講座 演劇分野  
准教授 高尾 隆

1993年島根県立松江北高等学校卒業。1998年東京大学文学部卒業。2004年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士(社会学)。専門は演劇教育、インプロ(即興演劇)。現在は大学での授業の他、杉並区の公共劇場「座・高円寺」など、学校、劇場、企業、地域、福祉施設などにおいてインプロ・ワークショップを行っている。著書に『インプロ教育：即興演劇は創造性を育てるか?』『インプロする組織』(共著)『学校という劇場から』(共著)『ドラマ教育入門』(共著)『クリエイティブ・アクション』(共著)など。インプログループ「即興実験学校」ではワークショップを行うかたわら、舞台にも立っている。

演習ではセミナーへのウォーミングアップとして、仲間とともにチャレンジし、探求していくことができる学びの場をつくり、インプロ(即興演劇)のワークショップ(参加・体験・協働型の学習・創造活動)によってゲームやアクティビティを楽しみながら自分を表現し、セミナーを共にする仲間と触れ合う。

## 【大学生との対話】

### 「大学生×高校生 大学生活を充実させるために必要なこと」

#### 「島根カタリバ」メンバー大学生

大学生1人に複数の高校生がグループとなって語り合う。先輩たちが話してくれる進路決定のきっかけとなった出来事や高校時に必要だと思うことを聞いて、自分が抱えている悩みや不安、考えを率直にぶつけてみる。現在、大学生活を送っている先輩だからこそ話せる大学で学ぶことの面白さ、高校生活を送る上で大切にすべきことについて話し合い、学校生活に活かしていくヒントをつかむ。

## 【演習Ⅲ】

### 「心理テストで自己分析」

講師 島根大学 教育・学生支援機構キャリアセンター  
キャリア教育部門長 就職支援部門長 専任講師 家島 明彦

1999年島根県立松江南高等学校卒業。2003年大阪大学人間科学部卒業。2005年京都大学大学院教育学研究科修士課程修了。2007年ノースイースタン・イリノイ大学心理学部客員研究員。2009年京都大学大学院教育学研究科博士課程学修認定退学。2009年島根大学教育開発センター助教就任。2011年島根大学キャリアセンター講師就任。心理学、教育学を専門とし、生涯発達心理学やキャリア教育について研究を進め、成年の理想自己形成における他者(特にメディアによる架空の人物モデルからの影響)に関心を持ち、日米のマンガ読者を対象に研究を行っている。

演習では心理テストや職業興味検査を通して自分にはどのような資質があるのか、どのような仕事に興味があるのかを知る。また、社会や職業について学び、将来の生き方と自分が生きていく社会との間にはどのようなつながりがあるのかを考える。

## 【パネルディスカッション】

### 「島根の未来を考える」

#### パネリスト

医療・福祉領域、公務員、企業経営者等の、島根県内外で活躍する若い世代の職業人

#### コーディネーター

島根県教育庁 高校教育課 学力向上・キャリア教育推進スタッフ 企画幹 多々納 雄二

島根に貢献することを視点に持って活躍する若き職業人が経験談を中心に、島根の魅力や課題、高校時代にしておくべきこと等に触れながら、高校生に向けてメッセージを発信する。パネリストの皆さんが働くことを通じて島根という社会とどのように関わっているのかを知り、社会的な視点から自身の役割を考えてみる。

## 【演習Ⅳ】

### 「島根の未来を支えるために」

講師 島根県教育庁 高校教育課 学力向上・キャリア教育推進スタッフ  
企画幹 多々納 雄二 ・ 指導主事 石倉 修

各種プログラム、特にパネルディスカッションの内容を通して考えてきた社会と自己とのつながりをもとに、島根の未来を担う一員として自分にはどのようなことができるのか、自分の将来像を思い描き、自信を持って将来像を発表できるようにしたい。また、他の人の意見を聞き、参考にしてより良い方向性を考えていく。

## 【英語授業】

### 「なぜ英語を学ぶのか」

講師 松江東高等学校 A L T  
サラ ブレンクホーン 先生

これからの社会に求められるコミュニケーションツールとしての英語を学ぶ必要と意義を理解するとともに、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションを通して英語を用いることの面白さを実感する。学習上の課題を解決し、学校での英語学習においてもさらに意欲を持って取り組めるきっかけとしてほしい。

## 【発表】

### 「島根の未来を支えるために必要なこと」

#### 参加生徒によるプレゼンテーション

全プログラムを通じて学んだことや気づいたことを振り返り、自身の中で整理するとともに、自己と社会との結びつきを踏まえて考えた将来像を発表する活動を行う。ふるさとである島根県に関わって働き、生きていくことの意義や自己の役割、その方策などについてグループで考え、集約した意見を参加者全員に対して発表する。

※プログラム内容の詳細は変更される場合があります。